

Grain Boundary

自由な発想と情報交歓の頁

リエゾン・セッションと産業界からの情報発信

年会は学術的な研究発表の場である、とお考えいただいている方が少なくないと思われます。もちろん、いずれ学術論文としてまとめられるような研究がアカデミックな立場から情報発信されていくことは、今後も重要であり続けることは間違いありません。しかしながら、セラミックスという科学・技術・産業分野を考えた時、このアカデミックな立場だけでは立ちいかない課題が多く含まれており、新たな元素戦略・材料戦略が求められている今、産業界からの情報発信が強く望まれています。

行事企画委員会では、年会の役割をもう一度見直し、2006年年会（東京大学）および2007年年会（武蔵工業大学）において、産・学・官の各界から、もっと幅広い（つまり学術とは視点を変えた）発表を行うことのできる場を「リエゾン・セッション」として設けました。具体的には、「セラミックス材料の実用化に向けて官学界が育成しており、これに産業界が加わることによって実際の製品化が期待される研究」、「産業界が抱えている、新製品や現製品に係る技術的課題を解決することのできる研究」、「既存技術の応用展開や技術的な試験および評価に対応する研究」、「セラミックスのエンドユーザーにとって広く将来の研究開発やビジネスの種となる研究」、「企業におけるセラミックス関連技術のブレークスルーとなる研究」、などを外部と積極的に連携して進めていきたいという意思表示の場です。さらに、産業界からのニーズの提示や共同研究の提案も歓迎いたします。当然ながらこのセッションは発表者だけでは成り立ちません。年会参加者の皆様にも、あらたなビジネスチャンスと捉えご聴講いただければ幸いです。2008年年会（長岡技術科学大学）でも引き続きリエゾン・セッションを行ってまいります。

2007年年会にて（株）豊田中央研究所および日産自動車（株）からそれぞれ講師をお招きし、自動車に関連するセラミックス材料の現状および課題について熱く語っていただいた企画（ユーザーサイド2007）を覚えていらっしゃるでしょうか。2008年は、ディスプレイに関わるセラミックス材料をユーザーサイド2008として取り上げる予定です。そこで、同時にこの分野でのリエゾンに関するご発表も広く募集しています。詳細は本誌11月号908ページ、および年会HP（<http://www.ceramic.or.jp/ig-nenkai/liason.html>）をご覧ください。リエゾン・セッションでのご発表には審査等は全くございません。

年会が活性化するための企画として、2008年年会ではリエゾン・セッション以外にも現在進められている元素戦略に関するセッションも設けております。また、セラミックスの工学教育技術の発展と人材育成の活性化のために、研究分野を超えた多くの方に参加・発表いただけるよう教育セッションを部会特別講演の時間帯に編成する予定です。今まで年会で発表する機会をお持ちでなかった会員の皆様にも、是非、発表申し込みを頂けますようお願い申し上げます。



エネルギー関連材料のリエゾン・セッションの様子(2006年年会)